理学療法士教育の一環としての地域活動導入の試み

Trial Activity in the Community as part of Physical Therapists' Education

峯松 亮¹⁾ 佐藤成登志²⁾ 立石 学²⁾

AKIRA MINEMATSU, PT, PhD¹⁾, NARITOSHI SATO, PT, MS²⁾, MANABU TATEISHI, PT²⁾

¹⁾ Department of Physical Therapy, Faculty of Health Science, Kio University: 4-2-2 Umaminaka, Koryo-cho, Kitakuragi-gun, Nara 635-0832, Japan. TEL +81 745-54-1601, E-mail a.minematsu@kio.ac.jp

²⁾ Niigata Rehabilitation Hospital

Rigakuryoho Kagaku 19(2): 85-88, 2004. Submitted Sep. 16, 2003. Accepted Jan. 19, 2004.

ABSTRACT: As part of physical therapists' education, activity in the community in which we can communicate with residents directly is very meaningful. Not only clinical practice, but also activity in the community is suited for understanding medical care, health care and welfare of residents. This paper reports the response of physical therapy students to questionnaire about an activity in the community as part of co-medical education. The trial got the approval and satisfaction of almost all the students. The main reason was an exchange of views with people living in the community. This trial was done to educate students with the following objectives: 1) gaining an opportunity to talk with residents, 2) cultivating a solution to a problem, 3) having an awareness of medical care, 4) having independence, and the importance of personal relations (negotiation, communication, mental care, etc.). Also, the students were told to put this experience to practical use. Thus, activity in the community is very useful and necessary for students having physical therapy education.

Key words: physical therapy education, activity in the community, educational curriculum

要旨: 理学療法士（以下；PT）教育の一環として、地域住民と直接交流のできる地域活動を実施する事は非常に意義深い。学生にとって臨床現場での実習に加え、地域活動は地域住民の医療・保健・福祉の現状を理解する場としても適している。地域活動をPT教育カリキュラムの一環として組み込むために、その試行としての地域活動に学生を参加させ、学生にアンケート調査を行ったので報告する。結果、ほとんどの学生は本試みに賛同し、理由として地域高齢者との交流が持てる事を挙げた。地域活動の中で1) 人と接する機会を得る、2) 問題解決能力を磨く、3) 理学療法への問題意識を持つ、4) 主体性を持つ事の4項目を目的に行った。学生は高齢者との交流を通して、主に対人関係（接遇、意思伝達、精神的援助等）の重要性を学ぶことができ、臨床現場への応用、自己学習にも有効との事であった。以上の事から、地域活動は学生へのPT教育の一環として有用な事象になり得ることが考えられる。

キーワード: 理学療法士教育、地域活動、教育カリキュラム

¹⁾ 畿央大学健康科学部理学療法学科：奈良県北葛城郡広陵町馬見4-2-2（〒635-0832） TEL 0745-54-1601
E-mail a.minematsu@kio.ac.jp

²⁾ 新潟リハビリテーション病院

表1 身体機能測定項目

氏名, 年齢, 性別.
<基礎事項>
身長, 体重, BMI, 体脂肪率, 血圧, 脈拍, 痛み, 現病歴, 既往歴.
<身体計測>
上肢長, 下肢長, 上腕周径, 前腕周径, 大腿周径, 下腿周径, 円背評価 (立位アライメント).
<身体の柔軟性>
関節可動域 (制限部位), SLR, 指床間距離, 尻上がり現象, アキレス腱の伸張度.
<筋力>
握力, 背筋力, 上肢・下肢 MMT.
<感覚>
関節覚, 足底感覚.
<肺機能>
肺活量, 酸素飽和度.
<歩行能力>
6 分間歩行, 10 m 歩行時間.
<バランス能力>
軌跡長, 外周面積, 片足立ち.

I. はじめに

今日の医療現場では, 医師, 看護師をはじめとして理学療法士, 作業療法士, 言語聴覚士, 社会福祉士, 介護福祉士, 義肢装具士, 臨床心理士など多くの専門職種が協業している。多くの医療従事職は国家資格であり, 大学, 短期大学, 専門学校などで必要な教育課程を修了し, 国家試験受験資格を得る。また, 医療従事職者は, 知識だけではなく, 治療技術等を修得する必要がある, 患者と直接的に関わる。そのため, 現場での実習 (臨床実習) が教育カリキュラムに組み込まれている。机上の学問だけでなく, 現場を体験する事は, 卒後すぐに臨床現場に関わる者にとって非常に重要である。しかし, 臨床現場での学生の受け入れ, 教育期間・時間等カリキュラムの設定上, 十分な臨床実習の機会を得る事は難しい。

我々は, 理学療法士養成校における教育カリキュラムの一環として, 地域活動を組み込むことを目的に本活動を試行した。本試みは1) 人と接する機会を得る, 2) 問題解決能力を磨く, 3) 理学療法への問題意識を持つ, 4) 主体性を持つ, の4項目を学生に与える事を目的に行った。教育カリキュラムの一環として地域活動の必要性を把握する一助として, 対象とした学生には, アンケート調査を実施したので報告する。

II. 対象および方法

理学療法士養成校1校における学生28名 (4年生) を対

表2 地域活動に対する学生へのアンケート

1. 賛成ですか.	(はい, いいえ)
2. それは何故ですか. 具体的に教えてください.	
3. 本試みを経験して良かった点を挙げてください.	
4. 本試みについての改善点を挙げてください.	
5. 本試みに必要性を感じますか.	(はい, いいえ)
6. それは何故ですか. 具体的に教えてください.	
7. 今後, この様な試みに参加しますか.	
参加しない. あまり参加する気はない. わからない. 参加すると思う. 是非参加する.	

象とした。試行した地域活動は「身体機能チェック」と題して, 地域在住高齢者56名 (平均年齢は74.3歳) を本校へ招き, 身体測定・検査 (表1) および学校案内 (体験含む) を学生が行った。

本活動実施後, 学生に対しアンケート調査を行った (表2)。アンケートは自由回答形式及び選択式とした。調査結果を集計し, 質問ごとに標本比率を求めた。

III. 結 果

アンケートの回収率は71.4%で, 有効回答率は100%であった。結果を表3に示す。

約9割の者が本試みに賛成であった (表3A)。その理由として, 地域の高齢者と交流できる, 高齢者の心身機能

表3 本施行に対する学生へのアンケート調査結果

A 本試みに賛成である		はい	89.5 (%)	いいえ	10.5 (%)
理由	地域住民との交流が持てる	40.0	参加人数が多い	25.0	
	高齢者の心身機能が把握できる	20.0	時間が足りない	25.0	
	自分の勉強になる	12.0	その他	50.0	
	高齢者が満足していた	12.0			
	その他	16.0			
B 本試みの長所と改善点		長所	(%)	改善点	(%)
	対人関係の経験	46.2	作業効率の改善	42.9	
	臨床場面へ繋がる	26.9	時間的余裕の必要性	21.4	
	勉強になる	11.5	対象者数の適正化	17.9	
	高齢者が喜ぶ	11.5	その他	17.8	
	その他	3.9			
C 本試みに必要性はある		はい	78.9 (%)	いいえ	21.1 (%)
理由	地域住民との交流が持てる	30.0	メリットを感じない	100.0	
	人の心身機能が把握できる	25.0			
	高齢者が満足していた	20.0			
	実習に役立つ	15.0			
	その他	10.0			

A：本試みに対する賛否とその理由。B：本試みにおける長所と改善点。C：本試みの必要性の有無と理由。

が把握できる、自分の勉強になる、高齢者が満足していたということが挙げられた。また、1割の者が反対としたが、その理由は人数が多い、時間が足りないということであった（表3A）。

本試みで良かった点として、対人関係（接遇、コミュニケーション）を経験できたとする者が半数近くを占めた。また、臨床へ繋がる、勉強になると自己研鑽に関する事項を挙げたのに加え、対象者（地域高齢者）が喜んでくれたという意見も挙げられた（表3B）。

改善点としては、作業（測定・検査）効率の改善を42.9%の者が挙げ、時間的余裕の必要性（21.4%）、適切な対象者数（17.9%）という意見がみられた。本試みでは、作業効率（測定時間・順序・人数）、実施時間、参加人数および実施人数の問題が挙げられた（表3B）。実際、全項目を測定・検査できた対象者は少なかった。

本試みの必要性については約8割の者が感じており、約3割が地域との交流の重要性を理由に挙げていた。また、約2割の者はメリットがないとして、必要性を感じないと答えた（表3C）。しかし、本試みへの再度の参加を希望する者は68.5%（是非参加する21.1%、参加する47.4%）を占め、参加しないとしたのは1名だけであった（26.3%は分からないと答えた）。

IV. 考 察

医療従事者養成校の目的は第一には教育、研究が挙げられるが、地域活動も重要な役割であると考ええる。すなわち、地域の医療、福祉、保健の現状を把握し、理解することは医療従事者および医療従事者をを目指すものにとっては当然の事と言える。また、学生が地域住民と交流することは、対人関係（接遇、コミュニケーション方法等）の教育にも有用であると考ええる。

地域活動を理学療法教育の一環として導入することについて、以前よりその重要性、必要性の高さが述べられている^{1,2)}。学生が地域活動を行うことは医療従事者の教育において、知識と技術の修得に加え、1) 人と接する機会を得る、2) 問題解決能力を磨く³⁾、3) 理学療法への問題意識を持つ、4) 主体性を持つ事を向上させる、場として非常に有効であると考ええる。本試みでは、上記項目1)～4)を学生が認識できたと考ええる。1)は言うまでもなく、結果（表3）で示したように、2)～4)についても高齢者との接遇を通じて目的を達成できたと考ええる。地域住民の中には医療・福祉・保健に興味を持っている人は少なくなく、養成校が地域活動を行うことは、学生の教育面だけでなく、地域住民の医療、福祉、保健へのさら

なる理解や啓発に役立つと思われる。

現在、理学療法士（PT）養成校は大学、短期大学、専門学校に分類されるが、知識、技術、人間性を兼ね備えたPTを育成する事が目的である。より質の高いPTを育成するには、教育水準の向上が挙げられるが、教育施設や設備に加え、周辺環境などにも大きく左右される⁴⁾。すなわち、教育側も設備や環境を整え、周辺環境を利用して教育する事により教育の多様性も生まれると考える。また、介護保険が実施されて以来、特に在宅を基本とした地域リハビリテーションの重要性が叫ばれており、ゴールドプラン21策定により、今後の高齢化社会を見据えたプロジェクトが施行され、より地域を中心とした活動が求められている⁵⁾。

このようにPTの関わる場は医療施設、保健施設、福祉施設だけでなく多岐に渡る。そのため地域活動では現場に即した教育を行う事が可能である。また、PTは知識、技術だけでなく、人間と接するということが大前提となる。学生は地域住民との交流を図れたとしてほとんどの者が本試みに賛同を示した。学生からも、対人関係の体験、臨床への応用など、今後医療現場について必要と思われる実践的な意見も得られ、教育の一環として有用である事が認められる。学生にとって地域住民と交流することは地域の特色を体感できるとともに、人との接し方を学ぶ良い機会になり、教育的にも意義深いものであると考える。高齢者も学生に対して様々な質問や疑問を投げかけ、学生も質問に対し懸命に説明する光景が見られた。学生の主体性や問題解決能力を向上させる場になると考えられる。地域住民との交流は、多くの学生が必要と重要性を感じていた。高齢者との交流を通し、測定のある方や方法を再認識し、高齢者と触れあう体験が今後の理学療法士を目指す意欲や将来像にリンクできると考えられる。

PT教育のカリキュラムにおいて、知識、技術を修得し、臨床現場での実習で実際に障害者、患者と接することにより実践的な教育を受ける。このことは規定のカリキュラムを履修させることはもちろんであるが、地域活動を通して多くの実践的教育を受ける事の必要性を示唆するものと考えられる。実習教育だけでなく地域の医療、保健、福祉の現状を理解する事により、卒後の現場教育にも役立つと考えられる。

以上のことから、地域活動は学生にとって重要性、必要性の高い教育であると言える。最も重要なことは、学生のPTを目指していると言う意識の向上であると考えられる。本試みにおける一連の活動を学生が主体となっていく事は教育的意義が高く、教育カリキュラムの一部として実施するに値すると考える。課題としては、地域活動を1つの授業科目として捉えるのか、既成科目の一部に組み込むのかの検討を要する。また、作業効率や時間的・人的・環境的問題等改善すべき点も多数あり、カリキュラム上の質的・量的問題も考慮しなければならないだろう。

引用文献

- 1) Grattan MP, Fitch D, Darnell RE: Chapter-organized community support of entry-level physical therapy education. *Phys Ther*, 1985, **65**(6): 929-931.
- 2) Blood H: Developing community health content in a physical therapy curriculum. *Phys Ther*, 1970, **50**(8):1226-1238.
- 3) Smith SR, Dollase RH, Boss JA: Assessing students' performances in a competency-based curriculum. *Acad Med*, 2003, **78**(1): 97-107.
- 4) Julian TM: A graduating medical school class evaluates their educational experience. *WMJ*, 1998, **97**(2): 56-62.
- 5) 厚生労働省:「今後5か年間の高齢者保健福祉施策の方向(ゴールドプラン21)」の推進. 厚生労働白書平成13年版(厚生労働省監). 2001, pp292-294.